

# 平成11年度大温室の植栽変更

平井健一郎・柴田昌男

## 1. はじめに

大温室では、より魅力的な樹種の導入や植栽を行ってきた。具体的には、新しい樹種の導入、枯死したものや他の植栽を日陰にする等の理由で撤去されたものについての見直し・再導入、現植栽場所より適当と思われる生育場所への移植、緑被用の下草・低木類の植え付けなどである。

特に平成10年から現在までの間、温室内の植栽を大きく変更してきた。そのきっかけとなったものが前報の土壌入れ替えに伴う植栽変更である。

植栽の変更を記録することは、植栽図のより明瞭な記録となると同時に、そういう植栽に至った過程、すなわち当時の担当者の見解を記録することであり、今後大温室の装飾・植栽を見直す場合の重要な資料となる。

また、前報で報告漏れのあったものについても併せて報告する。

## 2. 各植栽区における植栽変更の概要

以下に述べる植栽区は図1に示したとおりである。また、表1に新たに植栽もしくは移植した植物を示す。

### A：単子葉植物区

クマタケランをはじめとするショウガ科の仲間を多く植栽していたが、生育不良であったため、撤去し、ムサ・ヴェルチナを植え付けた。また、コスツス・アフェルはバナナの奥に隠れ、株元に咲く花も全く見えない状況であったため、トラフヒメバショウを撤去し、その後にコスツスを移植した。

これにより、花も観察しやすく壁面も覆うことができた。しかし、やや背が高くなり後方の植物が見えにくい点が更なる課題となっている。

### B：アメリカ・アフリカ産ヤシ区

このコーナーは大温室の導入部の重要な場所である。以前はヤシの他はベゴニアがあって、色彩的に乏しかった。そこで、Aのコーナーからフィリクマタケランと、キフゲットウの観葉ものを移植した。また、トーチジンジャーもコスツスと同様の理由で図のように移植したが、未だ開花に至っていない。

また、ジョウオウヤシをはじめとしてヤシが高木となり、株元がさびしくなってきたことと、株

が天井につかえ、更新を考なければならぬ時期にきていることから、ジョウオウヤシの実生を移植し、花みどり公園から分譲されたアブラヤシの子株を植え付けた。それと同時に比較的低木のカマエドレアの仲間も新たに植え付けた。

### C：アジア・オーストラリア産ヤシ区

このコーナーは土壌入れ替えの際下草の植付けを行った場所であるが、新たに低木類として観葉植物数種を植え付けた。

### D：熱帯果樹区

トケイソウの仲間は、かつては植栽されていたものの、温室内の日照の妨げになることと花が外側に向いて咲き観賞上問題があることから撤去されていたが、再度植え付け、温室の鉄骨部材等を隠すよう仕立てた。クダモノトケイソウは、順調に開花・結実したが、オオミノトケイソウは、トゲバンレイシに絡む点やキャットウォークの手すりに絡み日照条件を悪化させているので、こまめな誘引・剪定作業が必要である。また、結実させるためには、受粉作業が必要と思われる。

パパイヤも園が保有していた品種に加え、単為結果するプチカリオンとスイートイエローを導入し植え付けた。

また、カカオは、現在植栽している木の樹勢の低下が心配されたことから、若木を植え付けた。

ほかには、白色果を付けるレンブの1本を撤去し、桃色果を付ける木を新たに植え付けた。

果樹のコーナーは冬期を中心としてかん水を控えることから、下草として乾燥に強いペペロミアを選択し、ヤシコーナー（前報参照）から移植し、一部補植することで土壌を被覆した。

### E：熱帯花木区

平成10年6月の土壌入れ替え後、込み合った場所、他への移植でスペースの空いた場所、枯死した場所を中心に植栽変更を行った。特にポインセチアは、家庭では見ることができないくらいの大木にしたいと考えている。

アリアケカズラはかつてこの場所に植栽されていたが虫害がひどいことから撤去された。しかし、定期的な薬散により防止できると考え、再度植え付けた。

### F：バンダとその仲間区

バンダ後方は日当たりがよい半面、観賞するには通路から離れているため、植栽場所としてあまり適しておらず、以前はバーフィニアを多く植栽していた。しかし、色鮮やかで人目を引く花木で

あれば滝上部又は下の通路から充分観賞できると判断し、ジャカラнда、ナンバンサイカチを移植し、オオゴチョウを新たに植え付けた。ジャカラнда、ナンバンサイカチは、木としては充分開花してもよい大きさであると思われるが、両者とも開花に至っていなかった。この場所は土壤水分の制御も可能ではないかと考えており、今後の生育が楽しみである。

#### G：熱帯ジャングル区

このコーナーでは、熱帯のジャングルをイメージした展示を目的に植栽を続けてきた。熱帯の植物の特徴ともいえる気根や板根を形成する植物を植え付けた。また、滝前に植栽していた大木のエンテロロビウム・コンテルテスはカイガラムシが付きやすく薬害も出やすいこと、それらに伴う落葉で下のランコーナーにスズ病が発生するなどの理由により伐採・撤去し、ここは上段から樹冠を観察できることからホウオウボクを植え付けた。しかし、ホウオウボクにしては小葉が大きいことが判明し、別種の可能性がある。

一方丸池周辺はポトスやスパシフィルムが植えてあったが、全て取り除き、観葉となる野生種を含めたアンズリウム数種を植え付けた。

また、ジャカラндаを移植した後に、中国雲南省から導入された低木のウラリア・クリニタを植え付け、10月に開花した。

#### H：熱帯有用植物区

前報に加え、表1に示すように新たに植え付けあるいは移植した。ここは目立つ花物が少ないことから有用植物としてではなく、彩りを加える目的でシャウエリアやシロバナリマツリを植え付けた。また、花木コーナーに植栽していたフトボナガボソウも有用植物として利用されていることが分かり、こちらに移植した。日照条件は悪いが、これら3種はいずれも開花した。

#### 3. 今後の展望

以前から装飾上の問題が指摘されてきた土壤の被覆は今回報告したように、下草の植栽により順調に進んでいる。また、ヤシ区をはじめとして高木となり伐採の必要性が問われるものも少なくないことから、更新株の準備が必要である。また、有用植物区

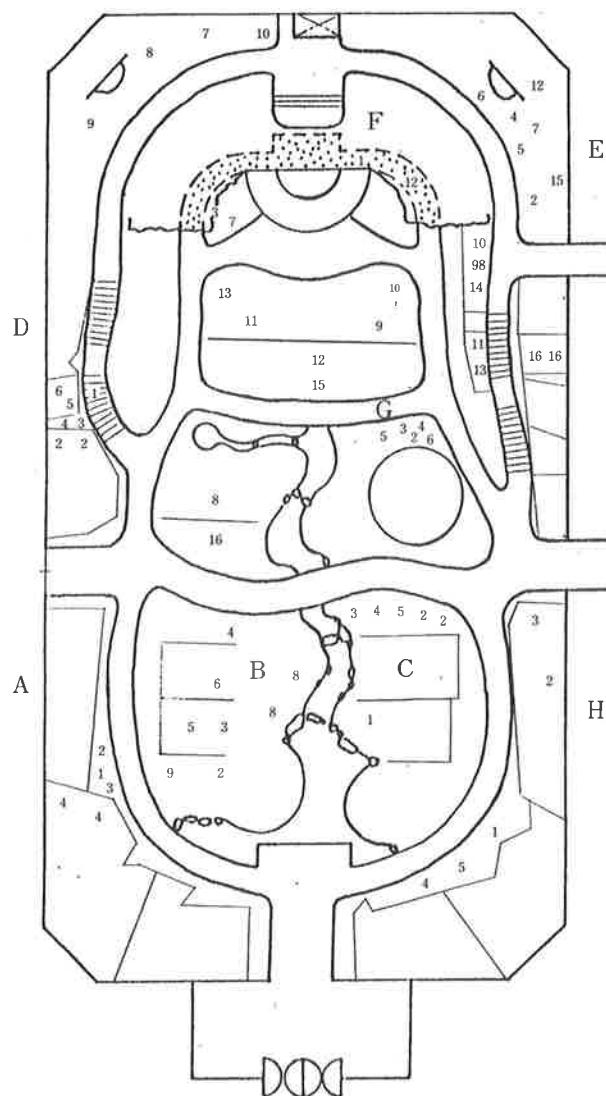


図1. 平成11年度大温室植栽変更図

において、大木を移植したのものには、根付かず枯死したものもあり、その撤去・補植、そして更なる充実が急がれる。

その際、従来の植栽をそのまま再現するのではなく、当園の栽培温室で保有している植物の見直しと大温室への導入なども含め、魅力ある植栽になるよう心がけていくつもりである。その一方で、装飾を急ぐあまり無秩序なものにならないよう充分注意し、検討する必要がある。

#### 4. 謝辞

大温室の植栽変更の際して、ケショウボクをはじめとして多くの植物を花みどり公園から分譲していただいた。ここに感謝の意を表します。

表1. 植栽植物一覧

植栽区	番号	植物名	学名
A	1	コスツス・アフェル	<i>Costus afer</i>
	②	コスツス・マロルティエヌス	<i>Costus malortieanus</i>
	③	コスツス的一种	<i>Costus sp.</i>
	④	ムサ・ヴェルチナ	<i>Musa velutina</i>
B	1	フィリクマタケラン	<i>Alpinia formosana cv. Variegata</i>
	2	キフゲトウ*	<i>Alpinia zerumbet cv. Variegata</i>
	3	ジョウオウヤシ	<i>Arecastrum romanzoffianum</i>
	④	カマエドレア・セイフリツツイ	<i>Chamaedorea seifrizii</i>
	⑤	ヒメテーパーヤシ	<i>Chamaedorea tenella</i>
	6	アブラヤシ	<i>Elaeis guineensis</i>
	7	メディニラ・マグニフィカ*	<i>Medinilla magnifica</i>
	⑧	メディニラ・スペキオサ*	<i>Medinilla speciosa</i>
	9	トーチジンジャー	<i>Nicolaia elatior</i>
C	1	クロトン*	<i>Codiaeum variegatum var. pictum cv.</i>
	2	キンシボク	<i>Graptophyllum pictum</i>
	③	プセウデランテムム・アラツム	<i>Pseuderanthemum alatum</i>
	4	プセウデランテムム・アトロプルレウム	<i>Pseuderanthemum atropurpureum</i>
	5	プセウデランテムム・アトロプルレウム・カトリニギ	<i>Pseuderanthemum atropurpureum cv. Variegata</i>
D	①	バンレイシ*	<i>Annona squamosa</i>
	②	パパイヤ*	<i>Carica papaya</i>
	③	パパイヤ プチカリオン	<i>Carica papaya cv.</i>
	④	パパイヤ スイートイエロー	<i>Carica papaya cv.</i>
	⑤	クダモノトケイソウ*	<i>Passiflora edulis</i>
	⑥	オオミノトケイソウ*	<i>Passiflora quadrangularis</i>
	⑦	ペペロミア・アルギレイア	<i>Peperomia argyreia</i>
	8	ペペロミア・クルシイフォルア	<i>Peperomia clusifolia</i>
	9	ペペロミア・オボワシイフォルア・グリーンゴールド	<i>Peperomia obtusifolia cv. Green Gold</i>
	⑩	レンブ (桃色果)	<i>Syzygium samarangense</i>
	11	カカオ*	<i>Theobroma cacao</i>
E	①	アリアケカズラ	<i>Allamanda cathartica</i>
	2	ニオイバンマツリ	<i>Brunfelsia australis</i>
	3	オオバナカリッサ*	<i>Carissa grandiflora</i>
	④	ハナセンナ	<i>Cassia corymbosa</i>
	⑤	クフェア・タイニーマイス	<i>Cuphea cv.</i>
	⑥	ハナヤナギ	<i>Cuphea micropetala</i>

○付き数字：新たに大温室に導入・植栽した種  
\*：前年度報告漏れの種

植栽区	番号	植物名	学名	
E	7	ケショウボク	<i>Dalechampia roezliana</i>	
	⑧	ユーフォルビア・フルゲンス	<i>Euphorbia fulgens</i>	
	⑨	ユーフォルビア・レウコケファラ	<i>Euphorbia leucocephala</i>	
	10	ポインセチア	<i>Euphorbia pulcherrima cv.</i>	
	11	キバナヨウラク*	<i>Gmelina histrix</i>	
	12	オドントネマ・ストリクツム	<i>Odontonema strictum</i>	
	13	ハナビソウ*	<i>Pellionia daveauana</i>	
	14	タイガーリーフ	<i>Peristrophe hyssopifolia cv. Aureovariegata</i>	
	⑮	プレクランサス・ヌムラリウス	<i>Plectranthus nummularius</i>	
	16	ランディア・マクランサ*	<i>Randia macrantha</i>	
	F	①	オオゴチョウ	<i>Caesalpinia pulcherrima</i>
		2	ナンバンサイカチ*	<i>Cassia fistula</i>
		3	ジャカランダ	<i>Jacaranda trinitosifolia</i>
	G	①	アンズリウム・アムニコラ	<i>Anthurium amnicola</i>
		②	アンズリウム・アンドレアヌム	<i>Anthurium andreanum</i>
		③	アンズリウム・マグニフィカム	<i>Anthurium magnificum</i>
④		ベニウチワ	<i>Anthurium scherzerianum</i>	
⑤		アンズリウム的一种	<i>Anthurium sp.</i>	
⑥		アンズリウム・ワロクエアヌム	<i>Anthurium waroqueanum</i>	
⑦		セイシカズラ	<i>Cissus discolor</i>	
⑧		キッス・シキオイデス	<i>Cissus sicyoides</i>	
⑨		クルシア・ロセア	<i>Clusia rosea</i>	
⑩		ホウオウボク	<i>Delonix regia</i>	
H	①	シロバナリマツリ	<i>Plumbago auriculata cv. Alba</i>	
	②	クサトベラ	<i>Scaevola sericea</i>	
	3	シャウエリア・カリコトリカ	<i>Schaueria calycotricha</i>	
	4	フトボナガボソウ	<i>Stachytarpheta jamaicensis</i>	
	⑤	イエアリジャン	<i>Telosma cordata</i>	

## ナンバンサイカチ (*Cassia fistula* L.) の開花について

平井健一郎・柴田昌男

現在大温室には、ナンバンサイカチを2株植栽している。以前から植栽してある熱帯有用木コーナー



（前報参照）に1株と、前年度土壌入れ替えに伴い、より日当たりのよい上段バンダコーナー後方に移植した1株である。そのうちの1株が開花したので報告する。

開花したのは熱帯有用木コーナーに植栽している高さ約6mの株である。本株は1975年に小石川植物園から導入されたもので、現在の場所に植栽されたものの、開花に至っていない。

1999年2月下旬、主幹に環状剥皮を行い様子を見ていたところ、同年8月、多くの花房を出し開花しているのを確認した。

新梢の基部に近い葉もしくは前年枝から総状花序を下垂させ、1花序40～60cm、長いもので120cmを超えるものもあった。1花序当たりの小花数は60輪前後のものから100輪以上のものもあった。花は径5～6cmの5弁花で黄色、約5cmの互生する花柄の先に1花を付ける。花序の基部から順次咲き始め、1花の寿命は比較的短かったが、1花序では2ヶ月以上咲いたものもあった。

当初、バンダコーナー後方に移植した株が生育条件、特に日当たりがよくなったので開花するものと予想していたが、この株は開花しなかった。また、1997年から大温室の果樹・花木の管理は、間引き剪定・かん水制限による土壌の乾燥等を中心に行ってきたが、やはり温室の、棗等による光線不足のためか、なかなかよい結果が出ていない。また、ナンバンサイカチと同時期に剥皮したカエンボクも今年開花したことから、大温室で未だ開花の見られない果樹・花木に対しては環状剥皮を試みる必要がある。